

『実践国文学』一〇〇号をむかえて

国文学科主任 福 嶋 健 伸

本誌『実践国文学』が一〇〇号をむかえた。本誌の前身

ともいえる『実践文学』の創刊は、一九五七年（昭和三二年）である。『実践文学』は、一九七一年（昭和四六年）の四二号を区切りとして、『実践国文学』と『実践英文学』とに分かれることになる。『実践文学』四二号の目次を見ると、この時期には、国文学系の論文と英文学系の論文が混在していることがよく分かる。このため、各分野の発展状況を踏まえ、国文と英文とを分離し、それぞれが独自の機関誌をもつべきだという結論に至ったのである。『実践国文学』創刊号は、その翌年の一九七二年（昭和四七年）三月の発行である。それ以来、半世紀、『実践文学』から数えれば、六四年間、絶えず研究を発表し続け、一〇〇号までたどりつくことができた。大変喜ばしく思うと同時に、

とても誇らしく思う。

論文執筆者はもとより、多くの方の支えがあつてこその一〇〇号である。今まで支えて下さった皆様方に、深く御礼を申し上げるとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます次第である。

（ふくしま たけのぶ・実践女子大学教授）